

部門別戦略（畜産）～多様な畜産経営を実現～

【概要】

酪農及び他畜種共通

【現状・課題】

労働力	・高齢化・後継者不足により離農増加 ・労働時間が長く、休みが取りにくい労働環境 ⇒ 雇用労力の確保、省力化技術導入の推進が必要	整備設備	・スマート関連技術の開発が進展 ⇒ 新しい生産体系の導入の推進が必要
飼料	・飼料自給率が低く、購入飼料価格に経営が左右 ⇒ 飼料の安定確保が必要	対環境策	・規模拡大等による環境問題への対応 ⇒ 堆肥還元に必要な飼料作付面積の確保が必要
販売力	・畜産物へのニーズが多様化 ⇒ 畜種毎の販売戦略が必要		

目指す姿

- ・飼養管理の省力化と飼料生産等の外部化が進み、労働生産性が向上している
- ・家畜ふん堆肥が有効活用され、環境と調和した持続可能な経営が展開されている
- ・「県産畜産物」の消費者への認知度が向上し、需要が拡大している

【主な取組】

- ・労働負担軽減及び飼養管理技術の確立に向けたスマート機械の導入・普及を推進
- ・外部化支援組織（育成牧場・酪農ヘルパー・コントラクター等）の育成・強化を推進
- ・稲 WCS や飼料用米等の利用と生産拡大を推進
- ・家畜ふん堆肥の広域流通を推進

- ・関係団体、量販店、レストラン、観光産業等と連携した県産畜産物の PR 活動の取組を推進

酪農 ～収益力の高い酪農経営体の育成～

北総地域

【地域の特徴】

- ・大規模経営体が多く、1 経営体当たりの飼養頭数は増加
- ・平坦かつ広大な農地が広がり、自給飼料生産の中心地帯

雇用労働と省力化機械の導入による規模拡大の促進

目指す姿

- ・新しい生産体系を導入し、規模拡大と省力化を実現している

【主な取組】

- ・畜産クラスター事業等の活用による施設整備を推進
- ・搾乳ロボット等の導入による規模拡大、省力化を推進
- ・発情発見システムや自動給餌機等の導入による効率的な牛群管理を推進

県南地域

【地域の特徴】

- ・中山間地域で中小規模経営体が多い
- ・耕作面積が狭く、自給飼料生産の拡大が困難
- ・豊かな自然環境や伝統文化など多様な地域資源、観光資源に恵まれている

家族労力を中心とした経営の維持・継続

目指す姿

- ・1 頭当たりの生産性向上と 6 次産業化による収益性の高い経営を実現している

【主な取組】

- ・供用期間の延長や乳量・乳質向上に向けた飼養管理の指導を強化
- ・受精卵の活用による高能力乳用牛・和牛の生産を推進
- ・搾乳ユニット自動搬送装置等の導入支援や生産者の技術習得を推進する現場指導体制を強化
- ・新規参入者の定着に向けた施設・機械の整備、補改修を推進

- ・『酪農発祥の地』等の地域資源を活用した地域の活性化と酪農への理解を醸成
- ・酪農と地域産業、観光産業とを融合させた、牛乳・乳製品の高付加価値化を推進

目標設定

- ・畜産産出額：1,194 億円（現状）→1,300 億円（R07 年度）

肉用牛 ～繁殖雌牛の改良促進と飼養管理の効率化による経営安定化～

【現状・課題】

- ・肥育経営は大規模化が進展、繁殖経営は高齢化・後継者不足、戸数減少が進む
- ・飼料費や子牛価格の高止まりが経営を圧迫し、収益性が悪化
- ⇒ 更なる生産基盤の強化が必要

- ・県産牛肉の知名度が低い
- ⇒ 地域や団体と連携したブランド力向上への取組が必要

肥育経営 主体

目指す姿

- ・規模拡大と肥育・繁殖一貫経営への移行により経営が安定している（肥育期間短縮と素畜費低減により低コストを実現）
- ・県産牛肉の消費者への認知度が向上し、需要が拡大している

繁殖経営 主体

目指す姿

- ・繁殖成績を向上させ、収益性の高い経営を実現している

【主な取組】

- ・畜産クラスター事業等の活用により規模拡大を推進
- ・繁殖成績向上のための発情発見システムや分娩監視装置等の導入を支援
- ・遺伝的データを活用した繁殖雌牛の改良のスピードアップを推進
- ・繁殖雌牛増頭のため、酪農経営と連携した和牛生産と地域内流通を推進

- ・県産肉牛の品質向上に向けた肥育技術の指導の強化
- ・関係団体、量販店、レストラン、観光産業等と連携したチバザビーフの PR 活動を推進

養豚・養鶏 ～安定した販売促進に向けた生産環境の確保～

【現状・課題】

- ・豚肉、鶏卵は生産量及び産出額は全国上位
- ⇒ 更なる販路拡大のため、国内外に向けた積極的な販売促進活動が必要

- ・企業化・大規模化が進展し、1 経営体当りの飼養頭数は増加
- ・県北東部は養豚・養鶏の一大産地
- ⇒ 豚熱や高病原性鳥インフルエンザ等の家畜伝染病への対応強化が必要

高い生産力を維持するための家畜防疫体制の強化、及び需要拡大の推進

目指す姿

- ・県産豚肉・鶏卵の消費者への認知度が向上し、需要が拡大している
- ・適切な飼養衛生管理による家畜防疫の強化が図られている

【主な取組】

- ・関係団体、量販店、レストラン、観光産業等と連携したチバザポークの PR 活動を推進
- ・県産鶏卵の輸出拡大に向けた取組を推進

- 発生予防
 - ・全ての畜産経営に対し飼養衛生管理基準遵守のための指導を実施
 - ・民間獣医師の活用による豚熱ワクチンの打ち手の確保と適期での確実な接種を促進
 - ・野生イノシシの捕獲を強化
 - ・野生イノシシや野鳥のウイルスのモニタリングを強化

- まん延防止
 - ・家畜保健衛生所の機能向上のための再編整備を実施
 - ・大規模農場や連続的な発生に備えた防疫資・機材の備蓄を強化
 - ・市町村や関係機関と連携し、地域防疫体制の強化に向け埋却地や焼却施設を確保